

サブセンター通信 — インドネシア・ジョグジャカルタ編 —

石 田 佐恵子

平成 14 年度 COE 事業推進協力者として、平成 15 年 1 月 19 日より 3 月 11 日まで、インドネシアならびにオーストラリアに海外出張し、サブセンターの運営および研究活動に従事している。出張期間の前半は主にジョグジャカルタ・サブセンターの運営にあたり、後半は研究ネットワーク構築のためにオーストラリアへと移動する予定である。以下は、その中間報告である。

ここでは、主に前半期のジョグジャカルタ・サブセンターの運営業務について報告する。1 月 20 日にジョグジャカルタに到着後、ただちにサブセンターの置かれている「ウィスマ・アリーズ」に着任した。ウィスマ・アリーズは、ジョグジャカルタ王宮の南に位置する宿泊施設（ゲストハウス）であり、大阪市立大学大学院文学研究科が交流協定を締結したガジャマダ大学（以下、UGM）および国立芸術大学（以下、ISI）のほぼ中間に位置し、市内への移動にも至便な場所にある。都市文化研究センターがオフィスとして借り上げた一室を充分に使用可能な状態にしつらえることが、今回の滞在の目的のひとつである。オフィスとは別の一室（通常の宿泊室）に滞在して、職住接近した環境のなか、センター整備に専念した。

ジョグジャカルタ・サブセンターの設置と整備については、これまで既に二度にわたり以下のように進められてきた。まず、平成 14 年 12 月に中川真教授・山野正彦教授がジョグジャカルタを来訪し、センターの選定・準備作業を行っ

た。次いで平成 15 年 1 月に、中川教授・谷富夫教授が来訪し、借り上げ契約の締結と備品購入作業を行った。今回の私の業務は、これらの作業を引き継ぎ、平成 15 年 3 月末のサブセンター開所式に間に合うように、センターの整備を進めることである。

着任時に未決であった課題は、以下の通り。

- (1) センター専用の電話回線の確保。
- (2) 都市文化研究センターのネームプレートの発注とその設置。
- (3) センター内の備品整備。中川教授が発注した本棚について、納品後の設置と代金の支払い。その他の未購入備品の購入。

(1) について。ジョグジャカルタの電話回線取得事情から、当初、専用回線の確保はきわめて困難と予想されたため、当面の連絡はウィスマ・アリーズの電話を借用し、FAX およびメールでやりとりをする予定であった。ところが、きわめて幸運なことに、私の着任直後に、通常価格で専用電話回線が確保されたので、無事にオフィス内に電話を設置することができた。以降、インターネットを使用したデータ収集、連絡がスムーズに進み、比較的容易に作業を遂行することが出来た。なお、市大アドレスを用いたメールの送受信を行うには、ジョグジャカルタにアクセス・ポイントを持つ国際プロバイダーのアドレスを予め取得しておくことが必要である。

(2) ネームプレートの発注について。木製のネームプレートを制作することにし、詳しい

下絵を作成して、ウィスマ・アリーズを通じて発注した。制作期間は約2週間で、予定通り納品・設置を終えた。

(3) センター内の備品整備について。1月前半の中川・谷教授の来訪時に、机2、椅子3、長椅子、整理棚、小物棚、冷蔵庫、TVモニター、マルチビデオコーダ、VCRコンボが購入され納品済みであったので、まず、それらをセンター室内の予定された場所に配置し、清掃・配線などの作業を行った。センターに購入予定であった備品のうち、ビデオカメラ、パーソナル・コンピュータについては当面購入しないことになったので、私個人の使用品を日本から持ち込んで運作業・研究に用いた。必要に応じて、プリンター、オフィス用品など、その他の備品を購入した。TVについては、衛星放送の受信は高額であるため、今回は地上波チャンネルのアンテナのみ設置した。屋根の上に設置できたので、受信状況は良好である。

中川教授が発注した本棚は、私の着任時には納品の予定だったが、着任後10日を経過しても制作に入っていないことが判明した。発注時の条件と食い違う点もあったため、制作をキャンセルし、中川教授が改めて次回の滞在時に発注することになった。また、今後センター内の書棚に収集していく予定の現地書籍を一部購入した。

日常的なオフィスの清掃、ティー・サービス、伝言およびファックス・サービスはウィスマ・アリーズから提供されている。また、備品設置にあたっての補助、工事提供など、ほぼすべての業務にウィスマ・アリーズの従業員の惜しみない助力を得たことを付け加えたい。

以上、2月10日までに上記のすべての業務を終え、3月のサブセンター開所式およびシンポジウム開催、研究員の滞在に十分な整備を行うことが出来た。

次に、ジョグジャカルタ・サブセンターを拠点とした研究交流の相手校、UGMとISIとの連絡・研究資源の視察等について報告する。滞在の第一週にセンター内の備品整備等の目途がほぼついたので、第二週からはUGMならびにISIの関係教授を順次訪問した。依頼状をファック

スで送付し、面談のアポイントメントを取った。文学研究科の正式な英文便箋がなかったので、社会学研究室の英文便箋を使用した。なお、各面談の際には、大阪市立大学英文大学案内、自身の英文履歴書・業績一覧、英語論文の抜き刷り等を持参した。

ISIでは、副学長ヘルミン教授を訪問し、面談した。ヘルミン教授には、3月末のシンポジウム発表予定者、スジョノ教授を紹介いただいた。当日、イ・マデ・バンデム学長はバリに出張中とのことで、表敬訪問があった旨伝言を依頼した。スジョノ教授には、記録メディア学部の施設を案内いただき、写真学科の学生の写真やテレビ学科のスタジオ、授業の様子や学生作品などを見学した。また、ヘルミン教授からは、英語の話せる大学院生（来学期より他校に進学予定）を紹介いただき、彼女には、連日にわたり、ジョグジャカルタ各地や近郊のさまざまな芸術関係の催しなどに連れていってもらった。偶然、卒業試験期間であったので、ISIのパフォーマンス学部の卒業制作（古典音楽、古典舞踊などを現代的にアレンジしたもの）を見学することが出来た。また、ジョグジャカルタと交流の深い隣町ソロ（約50キロ）の大学の卒業制作にも案内され、すばらしいパフォーマンスを堪能することが出来た。これらのパフォーマンスは、資料としてビデオ録画した。その他、いくつかの一般家庭への訪問などもアレンジしてもらい、短い滞在期間のなかで、急速に変貌するジョグジャカルタ社会について大いに学ぶことが出来た。ISI関係者との交流では、特に芸術・芸能関係について知見を深めることが出来、伝統古典芸能や表現文化の研究者にとって、たいへん魅力的な研究拠点であるとの印象を持った。

UGM文化科学部では、まず副学部長ティンブル教授を訪問した。私が英語しか話せないため、ティンブル教授とのコミュニケーションにはやや困難が感じられた。当日は、日本語学科の教授・学生とも不在であり、英語学科主任のモアディエント教授を紹介いただいた。また、モアディエント教授には、英語学科の大学院生であり、ジャカルタでTVキャスターとして働いているニナ・メリンダさんを紹介いただいた。訪問当日には、偶然、大学方針に反対する学生

デモンストレーションなども行われ、国内屈指の名門大学である UGM の大学らしい雰囲気を満喫した。

翌週には、サイリン学部長と面会し、シンポジウムの件など詳しく相談することができた。サイリン学部長は、ご自身がオーストラリアで学位を取られた関係で、出張の後半期に私が滞在する予定の大学間ネットワーク (The Centre for Asia Pacific Social Transformation Studies 通称 CAPSTRANS) ともつながりが深いことが分かった。今後展開されることが期待されるタイのチェラロンコン大学との交差的な共同研究を含めて、さまざまなネットワーク構築の可能性を期待させる面談だった。

昨年アジア都市文化専攻のシンポジウムで来日され、たいへんにお世話になった、UGM パフォーミング・アート学科主任のスダルソノ教授については、サブセンター近くにお住まいとのことで、直接お宅を訪問し、改めてご尽力にお礼を述べた。また、後日スダルソノ教授の方からもセンターをご訪問いただき、センター内の様子を見ていただいた。

最後に、私個人の研究テーマである現代メディア、ポピュラー文化研究の可能性について報告する。まず、インドネシアのテレビ文化については、ここ 3~4 年に急速に状況が変化していることが分かった。1990 年代後半まで、

国営放送の独占状態、少ないチャンネル数と規制の多い番組内容で、テレビ文化は未発達の状況であったようだが、ここ数年で地上波テレビのチャンネル数は倍増し、ジョグジャカルタで一般庶民が視聴できるチャンネルは 10 を超えている。また、番組内容も歌謡番組、クイズ番組、ワイドショーなどが人気を集め、これまで私自身が展開してきたポピュラー・テレビ研究を活かせる題材を確保できそうである。しかしながら、私自身がインドネシア語(ならびにジャワ語)を理解できないことは、文化研究にとって致命的な問題である。番組内容についての翻訳者、オーディエンス調査における通訳など、研究補助の確保、優れた語学力を持ち、私自身の研究センスと協働できる共同研究者を見い出すことが、何よりの急務であると考ええる。

以上が、インドネシア、ジョグジャカルタ・サブセンターにおけるセンター運營業務、今後の研究の可能性についての報告である。出張期間の後半は、オーストラリアへと移動し、関連研究者のネットワーク構築を目的に、オーストラリア国際ドキュメンタリー会議への出席、CAPSTRANS における研究発表、シドニー大学への訪問等を予定している。それらについては機会を改めて報告を行いたい。

(2月9日 ジョグジャカルタにて)